

澗江



澁江

—第12号—

目次

- 同窓会員の皆さんへ 渡辺達好... 2
- 激動期と本学 玉置 保... 3
- 澁江12号発刊にあたって 藤田敬三... 4

- 大阪経済大学学園だより
図書館の増築が完成 4

- 同窓会本部だより
待望の新名簿 発刊 5

- 同窓会支部だより
内容の充実と会員の把握を 7
- 東京支部・東海支部・京都支部・姫路支部・
広島支部・福井支部・北九州支部・岐阜支部
奈良支部
同期会 16・18回、17・19回
北九州支部総会に出席して 磯野 齊... 12

- 本学名誉教授
菅野和太郎先生逝去さる 13

ゼミ短信

- 稲原ゼミ・井上ゼミ・岩井ゼミ・喜田ゼミ・
倉辻ゼミ・竹林ゼミ・玉井ゼミ・成瀬ゼミ・
浜本ゼミ・藤原ゼミ・古久保ゼミ・松尾ゼミ
松原ゼミ・松村ゼミ・松本ゼミ

「女が愛されるとき……」痴人のたわごと
..... 荒牧博之... 17

- 名簿訂正 18

- 北から南から 23

同窓生短信集・30編

同窓会員の皆さんへ

同窓会理事長 渡辺 達好

激動する社会で日夜活躍の同窓生の皆さん、お元気ですか、台風十七号により被害を受けられた各位に心からお見舞いを申しあげます。

昨今は、国内、国外といわず、おおげさにいえば、地球上いたるところで目まぐるしくつきつぎと揚がっても降りることのないショッピングな幕が開き、一向にフィナーレのない内にまたいやな幕が開かれる。これではわれわれは寸刻も安定した環境の中にいるとはいえません。しかし、いつかは納得できる立派なフィナーレがあると思わなければ救われたいのではないでしょうか。

さて、本年も編集委員各位のみなみならぬ犠牲のご努力によ

り、十二号澁江ができてありがとうございます。届けることができるのはご同慶のいたります。全国各地の支部ならびに会員各位から寄せられた玉稿に対し心からお礼申しあげます。過日ご逝去された本学の創始者であり、名誉教授・理事でもある菅野和太郎先生(元通産大臣・万国博担当国務大臣・経企庁長官といったほうがなじみがあるのではないか)の追悼法要を十月三日(日)に京都の法然院で大学と同窓会共催で取り行ないました。先生の思い出話を語れば尽きることはないと思います。また、卒業生各位の中にも先生への思い出は数多くあろうかと思いますが先生のご冥福をともに心から祈ろうではありませんか。

また、昭和五十年版の同窓会名簿も、学校のご協力を得て、世良委員長を長とする名簿編集委員会各位のご尽力でやっと発刊され、お手もとに届いたことと思います。予定より約半年おくれ多大のご迷惑をおかけしましたが、「よ

り正確に」をモットーに莫大な作業を強いられた名簿編集委員各位には敬意を表するとともに、ご協力いただいた学校当局に対し心から感謝の意を表します。最後に、同窓会員も約三万人という数になり、物価狂乱の波に押しされ、学校当局同様同窓会も財政が逼迫している点をご賢察いただき、この面ではいろいろとご不満があろうかと思いますが、ご寛容をいただきたいと思います。

(五一・一〇・五記)

表紙説明

今回は、本学の図書館の増築の完成を祝して、表紙にとりあげました、見開きにして見て下さい。総工費、三億二、〇〇〇万円、延面積二、一八二平方メートルの大変豪華なものです。

戦終って正に三十年有余、わが国は、敗戦の苦難に打ちかかって、荒廃から建設へ、虚脱から充実へ、一步歩たたくましく前進し、それにつれて、大学も少くとも量的には、めざましく発展してきました。しかし、わが国経済は、一九七四年以来スタグフレーションにみまわれ、景気は停滞、その峠もやっと越したかと思うのもつかの間、ロッキード事件が突如発覚し、かてて加えて、地方自治体の財政危機問題、さらに、わが国特有の官公労働者の争議権復活問題がからんで、大学をとりまく内外の情勢は、多事多難、乱世の相を呈し、まさに政治的・経済的激動期にあるといえましょう。この国難は、指導者の出現を期待するというような他力本願では切り抜けることはできず、議会主義が媒体となっても、結局は、国民各自の英知と良識によって克服してゆかねばなりません。教育・研究を通じて、この英知と良識を最高に培う場が、大学ではなからうかと思いません。今日ほど、大学の使命の重大さを痛感せざるを得ない時は、ありません。国民総生産額の単なる量的拡大が、国民生活にとって喜ぶべきことではないと同じように大学の単なる量的拡大は、決して真実の教育の向上を意味するものではありません。まさに、大学が質的に評価され、自己批判すべき時であります。大学本来の使命の実践に耐えうるもののみが存在価値を認められることになりましょう。

激動期と本学

幸い、本学は、創立者黒正巖博士の建学精神が、歴代の理事長、学長、教職員および本学関係者にうけつがれ、量的のみならず質的にも発展し、この激動期にも微動だにしないことは、ご同慶にたえない次第でございます。教育は、社会という基盤に立って、なおかつ社会という目標に向って、若い世代の人たちを送り込むような工作をするという社会的機能をもっていますが、現代のように、社会がおそろしく動揺している時代には、基盤も目標もぐらついているために、ともしれば、混乱におちいるおそれがあります。教える立場にある私はこの厳しい現実を直視しながら、何が「社会的公正」か、何が「社会的

正義」かについて、その動向を見誤らないよう自戒しなければならぬと考えております。本学創立の功業者であり、多年本学の教育・経営に尽すいされた菅野和太郎博士が、去る七月六日逝去され、その追悼会が明十月三日大学と同窓会の共催で行われますが、故人を偲ぶ会で、歴代の理事長・学長・旧教員・同窓会各位のお話を承り、あらためて建学精神を肝にめいじ、本学の発展のために微力をささげるつもりでございます。

玉置 保

本学の近況およびお願いなど、去る三月に刊行されました「新同窓会名簿」にのせていただきましたので、くりかえしませんが、去る八月三十一日、待望の図書館増築改築および新設の研究室が竣工しました。本学の発展につれて、学生数も増加し、既存の図書館では、閲覧室・書庫とも狭隘となり、学生諸君の勉学に不便となり、事務的にも支障が生じてきましたのとマスプロ教育の弊を防ぐためには、教員の増加をはからねばなりません。その研究室に不足をきたしてききましたので、四十九年五月計画、五十年十月より着手していったものであります。その内容については、他日ご覧いただきたいと思っておりますが、電動書架、開架閲覧室、視聴覚室および昇降機設備などの近代的設備を、ととのえましたので、既存の体育館とともに、他大学に比し、遜色をみない本学の誇りうる近代的設備となりました。教員・学生諸氏が、未来を信じ未来に生きるために、真理の探究に没頭し、英知と良識に

玉置 保 取務事務長

よって、明日の社会・国家に貢献して下さることを希求いたしております。この竣工にあたり、学園の創立者、歴代の理事長、学長、教職員、同窓会、後援会その他本学関係者のご苦勞、ご賛助を思うと、感慨無量、感謝にたえません。厚く御礼申し上げます。いささか、お辞を申し上げて大変失礼致しました。澁江十二号発刊を、心よりお喜び申し上げますとともに、同窓会の一層のご発展および会員各位のご自愛・ご健勝を祈念致しましてご挨拶を終わります。

昭和五十一年十月二日

11月3日同窓会総会 於大阪経済大学キャンパス 11時30分から立食パーティー

— 新卒者大歓迎、会費も半額です —

澱江12号に寄せて

理事長 藤田敬三

秋冷の好季節もたけなわの昨今、同窓の皆様には漸く立直りのきざしを見せはじめた経済の中で、また限りなく騒々しい政情の下で、お仕事以外にも色々の緊張と感懐をもってお過しのことと存じます。

さて本年も例により、澱江発刊のこの機会を拝借して、教学関係以外の学園の近況を一、二と報告させて頂きま

す。まづ第一には何と云っても当今では財政のことが問題となりませんが、過去二、三年うち続く猛インフレの余波の強い現在での本学経理は、最近再度の学費引上げにもかかわらず予期した程の好転を得ずまた多少の国庫助成の効果も文部省の学生定員厳守の圧力の増勢に相殺されて決して楽観を許さないものがあります。しかしそれにもかかわらず教学の重責を果すためには全学一丸の献身的な努力で学生並に父兄の期待に答えんものと頑張っております。

その最近の成果ともいえるものは今夏竣工の図書館、研究室の増改築であります。苦しい中でも三億円余を投じてこの施設によって書庫の収容力、学生閲覧室、教授研究室等に関する久しく待望の問題が当面解決を見る

こととなったのは同慶の至であります。

つきに本学理事、評議員会は昨年来、同窓会並に学内から多数の新鋭理事、評議員の導入により、その活力の増大に努め、さらに今年七月からは学内事務系統に部長制を採り入れ、これにともなう配置転換等によって事務能率の向上を期しております。

あたかもこのような学園の情勢に呼応した形で、今回同窓会の新名簿が完成せられたことは、本学の諸活動にとっても、同窓会との連絡上にも大きなプラスと感謝している次第であります。と同時に本年は後援会の会長に同窓の砂山氏がご就任頂き、何かにつけて便宜に預っております。

終に本年は梅田、北里、辻部の諸教授が定年退職されましたが、教鞭の方は引続きお願しております。なお去る七月、創立の功労者菅野博士が逝去され、今月三日京都法然院にて追悼会が行われました。深甚の謝意をこめてご報告申し上げます。

諸兄のご健勝とご活躍を祈りつつ。

五十一年十月八日

大阪経済大学学園だより

図書館の増改築が完成

学園にとつての、今年のトピックといえは何と云っても、図書館の増改築ということになるだろう。「表紙参照」三億円をかけた増改築だったが、これで図書館と本館がつながり、いっそうの偉容を誇ることになった。学生の学習にもいっそうの力となることはうけあいである。

学内行事

- 4月8日 入学式
- 4月9日 10日 新入生オリエンテ
- 4月12日 前期開始
- 4月19日 履修登録
- 7月19日 夏期休業
- 9月13日 講義再開
- 9月22日 前期講義終了
- 9月24日 29日 前期試験
- 9月30日 本学記念日
- 10月1日 後期開始
- 12月25日 冬期休業
- 五十一年 1月8日 講義再開
- 1月17日 講義終了

学内人事

- 1月19日 学年末試験
- 2月7日
- 2月8日 春期休業
- 3月19日 卒業式
- 五十一年九月現在
- 学長事務取扱 玉置 保教授
- 経済学部長 上島 武教授
- 経営学部長 浜本 泰教授
- 教養学部長 玉井 孝弘教授
- 大学院委員長 鈴木 亨教授
- 五十一年七月十六日発令
- 総務部長兼庶務課長 玉岡 浩
- 経理部長 内田 三良
- 図書館事務室課長 石井 敏雄
- 図書部広報課長 桜井 弘志
- 体育館事務室課長 細羽 由三

同窓会本部だより

待望の「新名簿」発刊

懸案であった同窓会名簿も、多少の遅れはあったものの、期待以上のものが出来上がった。また、新役員の選任も担当も別掲のように決った。あとは名簿の不明者の追跡と、その連絡である。不明者をご存知の方は、本部まで

昭和50年度同窓会総会

昭和50年11月3日(祭日) 於 母校キャンパス

新名簿の発刊

昭和四十九年度に「名簿特別編集委員会」を設置して、調査に着手し、以来一年有余をかけて、新名簿はこのほど(五十一年三月)やっと

出来上りました。同窓生原簿台帳を作成するため、大学担当部課のご協力を得まして、卒業証書発行控簿などの照合を基本にしましたところ、思わぬ支障があり、しかも全国的に住居表示、電話番号の変更等で、転動先への照合など困難を極め、当初の予定日数をはるかに上回り、遂に三月迄延引いたしました。ここにあらためておわび申し上げます。

なお、今回残念ながら現住所のご回答(返信用はがき)が頂けず、止むなく「不明」として処理せざるを

同窓会本部だより

懸案であった同窓会名簿も、多少の遅れはあったものの、期待以上のものが出来上がった。また、新役員の選任も担当も別掲のように決った。あとは名簿の不明者の追跡と、その連絡である。不明者をご存知の方は、本部まで

待望の「新名簿」発刊

懸案であった同窓会名簿も、多少の遅れはあったものの、期待以上のものが出来上がった。また、新役員の選任も担当も別掲のように決った。あとは名簿の不明者の追跡と、その連絡である。不明者をご存知の方は、本部まで

昭和51年度 学部 学生数 ()は女子

	1年	2年	3年	4年	計
第1経済	686(14)	1,011(11)	725(17)	904(8)	3,326(50)
第1経営	742(20)	899(27)	899(21)	966(29)	3,416(97)
第2経済	146(4)	226(8)	110(5)	240(5)	722(22)
第2経営	173(3)	175(3)	178(6)	208(3)	734(15)
計	1,747(41)	2,311(49)	1,822(49)	2,318(45)	8,198(184)

五十一年四月一日新採用

経済学部 助教授 松村 文武 (米国経済事情)

経済学部 講師 竹本 洋 (経済学史)

経営学部 助手 谷口 明文 (外国書購読)

五十一年三十一日退職

経営学部 助教授 光沢 滋朗 (同志社大学商学部へ)

教養部 助教授 三ツ星堅三 (松蔭女子学院大学へ)

教養部 助教授 塩見 邦雄 (鳥取大学教育学部へ)

就職部就職課長 井手口茂美

教務部入試事務室課長心得 住井 讓

教務部教職課程事務室課長心得 米田 玉男

東キャンパスには図書館前に臨時ステージあり、もぎ店ありのにぎにぎしい大樟祭の最中、今年も例年のように天候に恵まれ、全国から同窓生が集い、総会が開かれた。

定期、C41号教室において、比企事務局長の開会宣言により、昭和五十年同窓会総会が開幕された。母校より学長・理事長先生はじめ、多数の先生方のご臨席を仰ぎ、渡辺達好同窓会理事長の挨拶、学長事務取扱玉置保先生、理事長藤田敬三先生よりお祝いのお言葉をいただいた。年令を忘れ、社会的地位も忘れ、一学生にもどって蛮声をはり上げ、高らかに学歌・学園歌を歌いあげる。引続いて、本館三階の親睦会場へ、恩師を囲み、旧友と肩をだき合い、しばしの懐旧談に花が咲く。……こうして名残り尽きない面持ちで、来年の再会を約しつつ、総会の幕がおりていったあとには、ただ校舎のみが茜色に映えていた。

最後に、この紙面をかりて、ご協力いただいた同窓生諸兄姉はもちろ

常任理事名簿と分担表

- 理事長 渡辺 達好 (3)
- 常任理事 広田 実 (1) 世良 鍊次 (3)
- 磯野 斉 (3) 萩原 市郎 (10)
- 桑津 昇 (11) 玉岡 浩 (12)
- 総務部長 小松真佐江 (14)
- 〃 谷口 一郎 (22)
- 酒井 弘光 (23)
- 水納 敏也 (25)
- 会計部長 陰下 嘉典 (16)
- 〃 平尾 啓男 (28)
- 大西 健介 (35)
- 編集部長 山中 良夫 (19)
- 〃 松本 義和 (18)
- 旭 克之 (27)
- 事務局長 比企 重 (7)
- 監 事 山上 善彦 (2)
- 中村美智子 (13)
- 前田 悦子 (13)
- 稲福 善男 (33)
- 三木 薫 (4)

得ませんでした諸兄姉の住所は、追
追ご連絡頂き次第、原簿台帳に記載
し、完全を期してゆくりつもりでおり
ます。

諸事情をご賢察のうえ、何卒ご寛
容下さいまして、今後ともよろしく
ご支援下さいますようお願いいたし
ます。

なお発刊後判明した分につきまし
ては本号にその一部を掲載しており
ますので訂正下さい。

また名簿ご希望の方がございま
し、まだまだ僅かながら残部がござい
ますので、お早い目にご送金下さい。
(四、〇〇〇円)

母校の入試に協力

昭和五十一年度入学試験実施につ
いて、大学より同窓会に協力方の懇
請がありましたので、急拠、一月三
十日(金)常任理事会を召集し、大
学側の事情説明を聞くとともに、慎
重審議の結果、昭和四十九年度に引
続いて全面的に協力することに決定

しました。

二月十七日・十八日の両日、寒風
吹きすさぶなかを、大学キャンパス
はいうに及ばず、各地方出張試験場
においても多くの同窓生諸兄姉のご
参集を頂き、ご協力を得ることが出
来ました。同窓会といたしましてそ
の責任を十分に果し、無事入学試験
を終了することが出来ました。
ご協力いただきました同窓生諸兄
姉に対し、ここにあらためてお礼申
上げます。

同窓会理事会開催

◇昭和五十一年六月十九日(土)
午後六時
◇ニュー・パレス(新阪急ビル)
第一議案
昭和五十一年度収支決算について
第二議案
昭和五十一年度収支予算案につ
いて
第三議案

役員改選について

第四議案

その他

◇出席者

名

×

×

×

司会 比企事務局長

第一議案

昭和五十一年度決算について陰下

会計部長より報告

山上監事より監査報告

質疑応答のうえ、満場一致で可決

第二議案

玉岡総務部長より昭和五十一年

度予算案について報告

質疑応答のうえ、満場一致で可決

第三議案

比企事務局長より議長選出方法

について提案。「司会者一任」の

声とともに拍手で満場一致。

広田(1)理事を議長に指名。

広田議長より新常任理事選考委員

として

中村源(4)、日南(7)、萩原

(10)、前田(13)、小松(14)、

谷口(22)、大西(35)

の七理事が指名され、別室にお

いて慎重審議の結果、選考委員代

表萩原理事より新常任理事二十

名、新監事三名、を発表、全員拍

手でこれを承認。

引続き新常任理事たちが互選の

結果、新理事長として渡辺(3)

理事を再選した。

渡辺新理事長の就任挨拶に全員

拍手。ここに昭和五十一年度役員

の顔ぶれが揃った。(別記参照)

第四議案

世良名簿編集部長より新名簿発

行についての収支報告

菅野和太郎先生ご入院加療中の

報告

武川(9)理事より故山口久雄

理事葬儀に際しての礼意を表さ

れました。

以上をもって議事とごおりなく

終了し、別室において懇親会に入

り、二〇時三〇分散会。

新しい理事と支部長

- ▷(1)宇野善四郎・内田真二▷(2)中島春雄・松原四郎▷(4)中村源・森元庸晃▷(5)岸本健蔵・清水忠文・長岡辰生▷(6)伊藤音七郎・町井清・中島靖夫▷(7)高垣収・日南為雄▷(8)柴田秀一・大橋秀男・長尾晃▷(9)武川茂夫・堀江秀二郎・山田信次▷(10)榊井貞詮・武内美次▷(11)筒井英夫・重里実▷(12)阪上謹之助・百野操▷(13)奥村美智子▷(14)上野満里子・柴田悦子▷(15)黒田稔・大川良・木下一子▷(16)百瀬昭治・酒井克己▷(17)太田一澄・相馬士朗・西尾良明▷(18)貝塚茂・浜本泰▷(19)平田五郎・浅井一男▷(20)山村泰造・川野群平・小林郁夫▷(21)榊喜作・畑勉・奥山正美▷(22)森本真輔・大槻明司▷(23)西本集一・坂口良三▷(24)上野見司・内田実・岩田昭二▷(25)重藤卓三・川村敦朗▷(26)辰本博己・田丸寛二・坂井田雄賢▷(27)森泉新一郎・坂元裕▷(28)鶴谷利一・大久保儀臣▷(29)大門寿郎・紀川賢太郎・長崎和夫▷(30)川上堅士・神田博・大室和弘▷(31)杉浦雄二・寺岡利之・山本昭夫▷(32)村田哲夫・中沢広凱・湯原郁雄▷(33)松竹喜満・丹波敏寿▷(34)岡崎竜雄・島口勝治・柏原義盛▷(35)須藤満征・木戸淳一▷(36)鈴木則男・福長俊之

顧問 藤原光治郎・浅沼玄恵・梅田武文

現支部長一覧表

- ▷東京 服部友一▷東海 加藤正秋▷滋賀 野田邦弘▷京都 木下隆徳▷丹有 梶村文弥▷神戸 田中義一▷姫路 永川仁一▷和歌山 松本句弘▷岡山 大森喜太志▷広島 佐々木一義▷山口 串田一▷高松 矢野保郎▷徳島 谷俊一郎▷高知 横田憲介▷北九州 荒牧博之▷石川 石地与四太郎▷福井 内田甫▷富山 重松尚▷三重 水上敏夫▷西宮 増田憲治▷岐阜 丹羽好輝▷南九州 宮田順一郎▷奈良 川島正作▷大阪市役所 金子昭典

昭和50年度収支決算書

自昭和50年4月1日～至昭和51年3月31日

収入の部			支出の部		
科目	決算額	予算額	科目	決算額	予算額
前期繰越	1,015,288	1,015,288	総会費	866,247	1,000,000
会費収入	8,928,000	7,500,000	役員会費	1,189,045	900,000
名簿収入	11,968,000	8,000,000	支部費	702,320	700,000
総会収入	224,000	200,000	事務費	2,547,483	2,500,000
利息収入	248,656	100,000	編集費	1,712,697	1,800,000
雑収入	2,150	0	学対費	1,137,680	950,000
			慶弔費	0	20,000
			名簿編集費	10,821,946	8,600,000
			雑支出	1,200	0
			小計	18,978,618	16,470,000
			予備費	0	345,288
			次期繰越	3,407,476	0
合計	22,386,094	16,815,288	合計	22,386,094	16,815,288

昭和51年度収支予算表

自昭和51年4月1日～至昭和52年3月31日

収入の部			支出の部		
科目	予算額	摘要	科目	予算額	摘要
前期繰越	3,407,476		総会費	1,000,000	
会費収入	8,000,000		役員会費	700,000	理事会・常任理事 会・各支部 通信費・各支部 会援助
名簿収入	400,000	名簿代 100冊	支部費	1,000,000	
利息収入	100,000	普通預金利息	事務費	500,000	
総会収入	200,000		人件費	2,000,000	事務局人件費
借入金	2,500,000	特別基金より	旅費交通費	500,000	
			激江編集費	2,200,000	
			名簿編集費	4,946,000	
			名簿追跡調査費	554,000	
			学対費	1,100,000	大学祭・クラブ活 動援助
			慶弔費	20,000	
			予備費	87,476	
計	14,607,476		計	14,607,476	

同窓会支部だより

内容の充実と会員の把握を

今年は、支部にとって格別の大きな変化はない。それな
りに、各支部とも内容の充実と、新名簿の発刊もあって会
員の把握へつくされた年であったと思う。今後のご発展を
心からお祈りする。

東京支部

ですが、昨五十年東京支部総会
十月十七日東京都勤労福祉会館にて
西山君(十六回)、牧田君(十九回)
梅本君(二十二回)をはじめ、幹事
諸君の絶大なるご努力により盛大に
開催することが出来ました。当日は
特に支部同窓会諸兄姉のご希望によ
り、本学より藤原、梅田、古久保、

浜本諸先生及び石井就職課長のご出
席と同窓会本部からは松本、山中兩
氏の賑々しいご参加を得て、非常に
有意義な集いを持ち、懐しい諸先生
を囲んで時の経つのを忘れて談笑の
輪がひろがり、老いも若きも学生時
代の想い出に花が咲きました。久し
振りに女子同窓諸姉も数人お見えに
なり、一層はなやかな会になりました。
翌日は先生方に、高野君(二十
七回)経営の熱海かじか荘和楽亭へ
お立寄り願ひ、しばしくつろいでい
ただきました。尚今回は、東京支部
名簿を新しく作成お配りする事が出
来ましたが、内容はまだまだ不十分
で、今後も引続きみなさんのご協力

により逐次充実したものと努力いたしてあります。内容は、従来のものに出身高校(旧中学)、学生時代の所属クラブ、ゼミ等を入れたました。ご入用の方はお申込下さい。この名簿作成に際しては、平井(二十八回)、河南(三十二回)、谷川(三十五回)の三名に大へんお世話になり感謝いたしております。五十一年度の支部同窓会は、秋に開催の予定をたてておりますが、東京支部が発足して丁度二十五周年になりますので、何か有意義な会にしたいと目下案を練っております。母校の益々の発展と、全国同窓諸兄のご多幸をお祈りいたします。

(東京支部長・服部友一)

東海支部

豪華な同窓会名簿が出来上った。四、五年も前の旧名簿で、総会の通知に頭を痛めていた支部では暗闇に光明をえた思いである。

東海支部の場合、大体あてずっぽに三〇〇人はいるといって答えていたものだが、まる半日ばかりで拾い出してみたら二四六人いた。これは本年度の卒業生を含まないの、まあ二六〇―二七〇人はいることだろう。ことしの支部総会はこれで例年の倍以上は集まって頂けるだろうと楽しみにしている。

この名簿が出来上ってしばらくした七月十七日、名古屋市民会館で母校と愛知大学の吹奏楽交歓演奏会が開かれた。吹奏学部長山本一行君がわざわざ小生宅を訪れ、入場券を同窓会諸兄に買って頂きたいという。あまり前例のないことだし、ちょっと戸迷ったが、新名簿の威力も確かめたいと快諾した。こんな伏線もあつ

て、名簿をより入念に調べて驚かされた。

卒業以来まる三十年会っていない同級生平岩正男君が地元の大有道路建設KK総務部長(早速電話したら二年間名古屋にいたが、七月に東京転勤)にいたり、同業の毎日新聞中部本社に佐藤浩一郎君(一九回)中部日本放送に村上健一君(二二回)の名前もある。このほか大和銀行名古屋支店長斎藤満君(二二回)永豊貿易KK取締役古田康定君(六回)ダイワハウスKK建設事業部長奥弘君(二八回)とまさに多士済々だ。ヒマを見てはつづつ電話訪問をしてみようと考えている。

さて交歓演奏会だが、ぎっしり埋った聴衆(約千二百)を前に「エルザの大聖堂への行列」「愛のテーマ」などクラシックやポピュラー数曲を披露、とくにドリル演奏の統一のとれた演技は相手校のそれをしのぐ圧巻ぶり。舞台へ登場した母校の校旗に思わず目頭が熱くなりました。と述懐した同窓生もいたほどだ。末筆だが誌面を借り、演奏会に協力して頂いた諸兄に厚くお礼を申し上げたい。

(東海支部長・加藤正秋)

京都支部

昭和五十年年度の支部総会は十一月十五日(土)午後六時より、京都市岡崎の洛陽荘において開催いたしました。出席者は二十五名でありました。玉置学長及び同窓会本部より比企先輩のご来席を得ましたので、参加同窓生もひさし振りに母校の様子を拝聴することが出来、大変有意義な楽しい会合でありました。約九百枚のご案内発送ですので二十五名参

加はさびしいことではありますが、それでも、それぞれ年令が違っており、違った意味での社会勉強の出来る場でもあります。さいわい新しい同窓会名簿も完稿されましたので、あるいは本年度は新しい参加者も多くなるものと期待いたしております。

十一月十三日(土)に開催を予定しております。同窓生おさそいあわせのうえご出席をお待ちいたします。平素のごぶさたをおわびし、同窓生みなさまのご健祥をお祈りいたします。(京都支部・木下隆徳)

姫路支部

しばらく途絶えておりました姫路支部の総会を左記の通り開催致しましたのでお知らせ致します。

記

- 一、日時 八月八日(日) 一七・三〇より一九・三〇
- 一、場所 北京閣(市内十二所前町)
- 一、来賓 母校より浜本教授、同窓会本部より比企事務局長
- 一、出席者四十五名
- (A) 現在姫路市及びその周辺に居住し、勤務先が姫路市内にあるものの卒業生の概数は数百名に上っております。
- (B) 昭和五十三年が、同窓会姫路支部結成三十周年にあたりますので、この時は盛大に致し度くその準備、親睦を兼ねる意味でも、幹部で協議の上、出来るだけ多数のものが出席可能な時期(七、八月頃)に姫路支部の総会を開催いたしますので、同窓生お互いに誘い合せの上多数ご出席下さいませよう、今から

同窓会支部役員

東京支部	支部長	服部 友一
東海	加藤 正秋	
滋賀	野田 邦弘	
京都	木下 隆徳	
丹有	梶村 文弥	
神戸	田中 義一	
姫路	永川 仁一	
和歌山	松本 旬弘	
岡山	大森 喜太志	
広島	佐々木 一義	
山口	串田 一	
高松	矢野 保郎	
徳島	谷 俊一郎	
高知	横田 憲介	
北九州	荒牧 博之	
石川	石地与四太郎	
福井	内田 甫	
富山	重松 尚	
三重	水上 敏夫	
西宮	増田 憲治	
大阪市役所支部	金子 昭典	
岐阜	丹羽 好輝	
奈良	川島 正作	
南九州	宮田 順一郎	

ご依頼致します。(C)各卒業回数毎に幹事の方を若干名依頼する予定をいたしてありますので、その節にはよろしくお願いいたします。(D)今回で支部結成以来通算第二十三回目の総会となっております。ご参考)

- (一九七六・八・三〇記)
- 支部役員一覧表
- 支部長 永川仁一(六回)
- 副支部長 柳内 明(五回)
- 会計幹事 福永好文(二十九回)
- 幹事 長谷川孝(二十二回)
- 米田泰造(二十二回)
- 以上
- (姫路支部長 永川仁一)

広島支部

中国の基幹都市広島市は、現在人口八十五万人で、近く百万人の政令都市に飛躍しつつありますが、一般の景気としては自動車、造船業の不振により、国内でも景気の良くない町の一つに数えられており、数年前のビルラッシュの面影は見受けられない状態です。しかしながら、いわゆる広島の特徴として3Bといわれておりますように、BRANCH、BUS、BARは以前と変わることなく、特にあらゆる業種の支部、営業所、出張所は増えるばかりで、「広チヨン」族の多い町といわれる理由ともなっております次第です。

同窓会にもご出席願えないことも多く、中には、後から「同窓会の会合があるのですか」と聞かれる場合も多々あったようなことです。広島支部としては、同窓会に集ってくる人はほんとうに母校を愛し旧交を温め、或いはこれを仕事に利用する等、各々目的は違いますが、何らかの誠意を持っている人の集いやすいという方針で開催しておりますので、特別に出席勧誘等は一切行ないませんので、その点お含みの上、県下五〇〇名に及ぶ会員の方に本誌を借りてお知らせする次第です。なお、同窓会は広島市において、母校の出張入試が行われますので、例年二月中旬に開催しております。また、河野先生も下関市大の学長を退官されて広島へお帰りになりました。若い方では東洋工業サッカー

福井支部

去る十一月三日経大同窓会総会の会場において支部報告として、来る十六日福井支部の総会開催予定をご報告申し上げた。その後私は、重ねて比企同窓会事務局長に申入れたところ、当日は奈良支部総会とちがひから駄目であるとお言葉を拝聴したが、それにつけても十月某日第七回卒業の長谷川哲郎先輩のご好意によって、嶺南の地美浜町において開催してはとの話で、吉田先生より連絡を受けた。日どりは即座に十一月十六日(日)と決定した訳である。従って何時もの通り、吉田、鈴木、畑守の諸先生方を始め、数多くの同窓生皆様のお世話の下で、開催の運びとなったものである。

上・広島支部総会
下・奈良支部総会



支部総会から

また私としては、一人でも多くの参加を願ひ、新聞社にその旨を話したところ、福井嶺北タイムス新聞社の同意を得、同社は直ちにこれを取り上げ、「大阪経済大学同窓会総会開く、県支部十六日美浜町うめやで」との見出しで「大阪経済大学同窓会福井県支部(内田甫支部長)の総会は、十六日(日曜)午前十一時から三方郡美浜町丹生、旅館うめや

電話〇七七〇三七八番）で開かれる。同日は同大同窓会本部から渡辺達好理事長も出席する。会費五千円で当日持参のこと。美浜原電の入口にあり敦賀駅発九時三十分

16・18周期会から

十六、十八回の同期会が、昨年十一月二十三日、東区上本町一丁目の山中荘において開かれた。一年おいての同期会と奇異の感を抱かれるかも知れないが、十六回は昭和二十五年、経済専門学校卒、十八回は新制大学三年編入で第一回経済大学卒と、同時専門学校入学でありながら卒業回数



大阪経済大学16.18回合同々期会 昭和50年11月23日 於山中荘

は分れたわけである。もちろん中には両方を卒業した者もいる。といふ、まことに幸運であり、ユニークな回数であったのである。十六回卒業が二十五年であるから、ちょうど二十五年ぶりの再会というわけである。定刻の五時には、広島、岡山、東京からもぞくぞくと参集、藤原、風間両先生の出席も得て、まことに盛大な会となった。さすがに四分の一世紀も経過すると、それぞれに人格の重さに加え、外形的には、すっかり頭髪の後退したもの、ロマンスグレーを通り越して白髪のもの

分丹生着十時十二分のバスの便ある関係者全員の参加を望んでいる。」との詳細の記事を以て、しかも大々的に報道された。私は、早朝家を出発、定刻の一時

間前、午前十時旅館に入った。旅館には既に、長谷川先輩が一人今日の

献立などで、旅館側と余念なく立舞っておられる様子を目の当り拝見して、こんなすばらしい光景はないと心ひそかに今日の日を有難く、その好意と誠意に対して心から感謝した次第であります。

経済の国際化時代にふさわしい今後の中小企業のあり方を示す論文解説および書評
中小企業に関する文献目録
年間購読料 ¥1,500 (〒とも)
中小企業経営研究所

国際化時代の中小企業の理論と情報

中小企業季報

やがて定刻の時間には、ぼつぼつと元気の良い懐かしい顔、そして第七回の田中雅次郎先輩の姿も見え、結局参加人員は、全部で十二名となった。参加することに意義ある会合としての経大福井支部の集いは、私はその参加人員の多少を云々する積りは毛頭ない。いわんや、この不況下と出費多端の折柄、また、経済的にも家庭的にも色々事情もあり得ることだから、欠席は止むを得ないことであり、仕方ないことだと思ふ。しかしこれが開催までにはこうして誠意ある数多くの同窓の人々が準備を進めて頂いた好意に対する往復はがきで各自にその返答を求めたことに対しては、如何なる理由下におかれても出欠の返事ぐらゐは出して頂きたいものだと思ふ。

そういふわけで、北九州支部総会は出張入試が終った二日目の二月十八日のたそがれ、市内の料亭「豊年萬作」で開いた。先輩・同人およそ四十名が集ったが、本部からは三回の磯野先輩の出席を得た。会場の「豊年萬作」はことしの元旦にオープンした開軒裏や、餅つき臼、糸車などがあるといった古風なたたずまい。温かい雰囲気につつまれて経大の懐旧談に花が咲いたが、逍遙歌の歌声と共に、大阪経大の発展を願う心がいっぱいにみなぎっていた。

に深いご理解を得たいと思ひます。さて先にも申しした通り、長谷川先輩の行届いた采配によって山海の珍味とともに酒も出回り、ここに少人数ながらも至極なごやかな会になり、支部長より経大総会状況を交えての挨拶後、吉田先生より会員の近況報告などがあつた。続いて大丁先生より経大マンドリンクラブ並びに吹奏楽部演奏会開催時にあつた景気

北九州支部

名目だけの岐阜支部長になつていきます。何かよい方法はありませんか？。名目だけの岐阜支部では皆さんが淋しいと思ひます。皆さんの協力さえあれば本ものにしてほしい気持があります。卒業年度に関係ありませんからわれこそ……と思われた方は八〇五八二〇七四一七七一七へお電話下さい。

(岐阜支部長 丹羽好輝)

今年もまた北九州支部総会は、経大の出張入試が福岡市で行なわれた

17・19同期会から

去る六月二十六日、久しぶりに上町の山中荘で第十七回、十九回



大阪経済大学17.19.同期会 S51.6.26

の同窓会が開かれた。当日は、梅田先生、藤原先生、風間先生のお三方や、遠来の友、牧田君、改田君(東京)大枝君(新潟)の参加もあり総勢

五十二名にのぼる盛会であり、特に庄巻は梅田先生に対する記念品の贈呈(東大寺別当清水公照師の書一巻)の際中国語(同時通訳)による浅井君の感謝文の朗読であつた。(尚、同文は経大の榎本先生のご協力を得たものである)

また、藤原先生より大学の現況報告をして載き、我々のすぎ去りし学生生活をなつかしむとともに、今後尚一層の母校の発展と一同の健康を祈り、大学唱歌、万才三唱の後散会となつた。

(十九回生、植田)

奈良支部

(北九州支部長 荒牧博之)

全国の同窓生諸兄姉、お元氣ですか。奈良支部が創設されてから今年で三年を迎えました。昨年十一月十六日第二回目の支部総会を、奈良市の奈良文化会館で開催しましたが大盛会でした。大学側より藤原、浅沼両教授、同窓会本部より比企、酒井両理事が出席下さり、奈良県の各地より参集した同窓生五十名、女子の同窓生だけでも七名を算えました。創立の労をとられた川島支部長は病のため第一回総会を病院のベッドで迎えられましたが、第二回目の総会にお元気な姿をみせられ、盛んな拍手に迎えられて挨拶をされ、我等の支部長健在なりの感を深くしました。今回は十三回の浦西シズ子

岐卓真在任の同窓会メンバーの皆様へ。

岐阜支部

昭和五十年師走 (福井支部長 内田 甫)

帰路については、事故防止のため各人がタクシーに分乗したが、私には吉田先生運転の自家用車で武生市役所まで無事送って貰つた。以上いささか型破りの支部だよりとなり、まことに恐縮ですがこの点くれぐれもご寛恕を賜わり、ご笑談願えれば望外の幸であります。最後に、この貴重な紙面を拝借して、大阪経済大学同窓生の皆さん並びに、福井支部会員のますますのご健闘とご多幸を、心から祈つてやまないものであります。

六年前ゲバ盛んな頃支部総会に出席して、その後訪ねる機会がな

前に訪れた時は、街を歩いてもまだどこか鄙びたところが残って

市へ脱皮しつつある街のどまん中に、名和易断所の看板が人目を惹

そは降る雨の中を試験場にあてられた水城学園へ急ぐ。到着した

（梶原観光課）が梶原より、三十八回上林喜洋氏（上林青果経営）が川

この総会の第三回目は本年十一月中旬に開催されますので、今回の激

繁昌さほこも同じのようである。五時半からの支部総会にはまだ

も親しみを覚える「豊年万作」へ急ぐ。タクシーに乗って五分も経

北九州支部総会に出席して

第三回 磯野 齊

田舎の宿を思わせる作りで何となく落着いた雰囲気である。荒牧支部長

（梶原観光課）が梶原より、三十八回上林喜洋氏（上林青果経営）が川

この総会の第三回目は本年十一月中旬に開催されますので、今回の激

定刻をすぎず頃には、初めての出席だと言われる二回卒の大塚

氏をはじめ、十回から十五回の佐藤、井口の中年層諸氏を経て、荒

六時、支部長の名司会により総会は乾杯に始まり、同窓会本部の

次にご報告申し上げたいことは、支部発足以来川島支部長が、全国の同

この環が全国にひろがって行くこととなるのであります。また、紀州生

社、銀行重役、自動車販売等々、実に多岐に亘り北九州発展に寄与さ

に聞き入り、誠になごやかな交流であった。盛り沢山の珍味に舌鼓

常が偲ばれた。住所 尼崎市東園田町五十一〇 九一十 勤先 税理士

いただくことになり、支部の家族のリクリエーション、或は支部のグル

支部のお便りを下さい 支部総会並びに同期会が行われ

菅野先生逝去さる

一本学園創設以来の大恩人

政財界にも数々の功績を残して

学 菅野先生 本名 菅野先生



菅野和太郎先生と大阪経済大学

菅野先生と母校経大のつながりは昭和十年に始まる。当時浪速高商として発足した母校

菅野先生追悼法要

大阪経済大学の創始者の一人として、故黒正蔵博士と共に母校の大恩人であった菅野和

当日は午後一時より法然院本堂に於いて、先生のご家族の方々をおまねきし、学者としての先生にゆかりの

辺同窓会理事長、武田先生、建林先生、河野先生、色川先生、堀江先生（京大）、岡村秘

本学建学当時の先生のお姿が生き生きと語られ、また政治家としては、あまりにも清潔

菅野和太郎先生略歴

- 出生 明治二十八年六月二十日
- 大正九年六月 京都帝国大学経済学部卒業
- 十年八月 文部省在外研究員として英・独・伊に二カ年留学
- 十三年二月 彦根高等商業学校教授
- 昭和七年十月 経済学博士
- 八年三月 大阪商科大学教授（現、大阪市立大学）
- 十年九月 財団法人昭和学園理事、昭和高等商業学校教授
- 十一年七月 大阪商科大学教授退職、大阪市理事、教育部長
- 十五年八月 大阪市企画部長
- 十七年四月 衆議員議員当選（当選九回）
- 十八年九月 大阪府商工経済会理事長（現大阪商工会議所）
- 十九年五月 昭和高等商業学校長
- 二十六年十月 学校法人 昭和学園理事
- 二十八年六月 大阪経済大学教授
- 三十四年六月 国務大臣、経済企画庁長官、万国博担当大臣
- 三十四年十月 学校法人 大阪経済大学理事
- 四十一年五月 勲一等瑞宝章を受く
- 四十一年十二月 通商産業大臣
- 四十四年十一月 万国博担当大臣
- 四十六年十一月 国務大臣、経済企画庁長官、万国博担当大臣
- 五十年十月 勲一等旭日大授章を受く
- 五十二年 二十五年在職議員として衆議院より表彰を受く
- 五十一年六月 大阪経済大学名誉教授
- 五十一年七月六日 逝去 正三位に叙せらる

「ゼミの集い」欄を設けておりますので大いに活用してください。

この原稿は現在、大阪経済大学でゼミナールを担当されている先生がたにおたずねしたうち、お返事をいただいたものを集録したものです。

ご参考までに、事務局よりゼミ担当の先生におたずねいたしました事項は、

一、最近ゼミナールOB会を開催されたことがござ

ゼミ短信

いますか。されました時はその世話役に原稿を提出するようお願いして下さい。

二、先生のご近況につきまして卒業生に一言お知らせ下さい。

三、その他雑感、随想などございましたらご寄稿下さい。

(事務局・アイウエオ順)

稲原ゼミ 稲原康雄先生

今冬二月の定例ゼミ旅行は、四十八年と同じ沖繩県久米島へ渡った。万事平穩無事、同行の池野先生(保険論)が漣を立てた程度。印象に残る見物は、鹿児島一那覇間の琉球海運ダイヤモンド沖繩号(八六一〇ト)、二七・三ノット、定員一〇三三人)が、船客わずか五〇人、われわれの一行が過半数を占めたゴーストシップだったこと、那覇交通株式会社社のポロバスが、本土では滅多に見られない占領下の惨状を今も保存しながら走っていたこと、久米島に渡る西南航空のYS11型機が相変わらず満席運航で、この独占力の所在に疑問が残ったこと、久米島の路線バスが「乗降は停留所」のステッカーを貼りながら、運転時刻がたつらめで、依然「拾い歩き」の空転をやっていたこと。

なお、新生旅館三〇一号室に泊った諸君、払い忘れた電話料二千余円は払っておいたから気にしなさんな。気にしなかったのが気になり出したとすればごめんさい。

井上ゼミ 井上 清先生

私の近況
歳月のたつのも早いもので、本学にご厄介になって二十九年になりました。

11会計事務所(棚橋 勝 25回生)
12学校公務員(坂井田雄資 26回生)
13営業関係(滝 重一 23回生)
14経理原価管理(伊藤米市 28回生)

午後六時より三百畳の大広間において、ご来賓の経営学部長浜本先生の乾杯の音頭により懇親会が始まる。全員一堂に会し先輩後輩のなごやかな、交歓ムードの中に酒宴たけなわとなる。九時過ぎ同期の桜にもうけられた各室に入り、夜を徹して歓談に耽り、翌十五日朝食後、先生自筆「捲土重来」の色紙と会員名簿をもち名残りを胸に秘め解散した。

倉辻ゼミ 倉辻平治先生

○ゼミナールの現況。ここ数年間ゼミ生数は約三十名。ゼミナールのテーマとしては、所謂経済成長



ゼミ総会から 上 倉辻ゼミ・下 喜田ゼミ

した。その間、数百名のゼミ卒業生を世に送りだし、それぞれ元気に活躍されていることは喜びに堪えません。小生らの二人の子供も結婚し、一家をなし、核家族になってしまいました。今日までがむしやらに生活してきたように思いますが、暫く成人病に注意して、慎重に活動を続けてゆきたい所存です。歴史は急速に進んでおり、社会発展の方向を見誤ることなく、今後大過なく前進してゆくのが小生の念願です。

岩井ゼミ 岩井 茂先生

今年度は都合により、ゼミ参加者の新規募集をしなかったため、自然目下四回生のみの一クラスです。研究テーマは、相変わらず「国際通貨体制」ということですが、ご承知のとおりIMFでは、その協定の第二次改訂案が各加盟国に示され、その承認を求めている最中です。日本はいち早くその承認書を送付し、また先頃米國も承認しました。この改訂の発効前に、IMF保有金の一部を放出することとなり、それが主因となって金の市場相場がロンドンでは一オンス一〇ドルを割るといふ現象を来たしています。

ゼミの学生諸君がこうした事実をどのように受けとめて卒論を書いてくれますか、今から楽しみに卒論の

のもたらしたさまざまなマイナス面―特に、過密都市、自動車公害等の問題等―をとり上げています。○ゼミ卒生の年次集会。七月九日、小生ゼミ卒生の年次集会。倉春会を梅田でもちました。今年第五回目、現役の学生も交え六十五名参加、愉しい一夕をすごしました。ゼミナール卒業生の諸友には社会人として何かとご多用と思いますが、できるだけこうした機会を通して相互間の旧交を温め、また現役学生諸君との交流を深めて頂き度く、此の機会に更めてお願ひしておきます。

第五回倉春会開催さる

倉春会も結成以来五回を迎え、本年は七月十日(土)、梅田の「本む

提出を待っている状態です。

なお本年度のゼミ旅行は、七月末に高山、新穂高、上高地を三泊四日を費いしてまわってきました。参加者は十四名で、ゼミ全員の約半数に及びました。

喜田ゼミ同窓会誕生

―二百名集まる―

古稀を祝われた喜田義雄先生と奥様を迎えて、五十一年二月十四日(土) 東大阪市国際観光ホテル「寿楽」を借り、一夜を明かし、杯を傾け旧交を暖めた。

先生のゼミナールのOBは昭和三十三年卒(第二十一回生)より昭和五十年卒(第四十一回生)までで七一〇名。近年の経済情勢の折から出足如何と気づかれたが、東京や九州、四国その他各地方からの参加を得て総数二〇四名(うち女性一〇名)が参集した。

午後三時より大会議室で発会式が開催され、ご来賓の学長玉置保先生、同窓会常任理事萩原市郎氏が喜田ゼミ同窓会発会の祝辞を述べられる。続いて喜田先生の謝辞、とくに、この総会の準備委員諸氏の苦勞に対して、感激に充ちたお礼の挨拶をされる。祝電披露、記念品贈呈。静粛と興奮の裡に発会式の幕を閉じ

さし」に集い、盃を傾け一夜を談笑し旧交を暖めた。

当日は年代こそ違うが同じ倉辻ゼミの釜の飯を食った輩が北から南から、また、東から西からと倉辻先生を中心に集って来た。その数八十有余名。回を追うごとに盛会になる倉春会に第五回という一つの節を祝し同窓会本部より比企事務局長のご来臨をいただき錦上添花をそえていた。

会は陶山智康(19) 会長より開会挨拶、倉辻先生のお言葉に続き比企事務局長よりご祝辞をいただいた後、第五回を記念して先生に記念品を贈呈し、式を閉じ宴会に入る。先生がいわれるように無礼講ではあるが、いざとなると、いくら年をとっててもやはり先輩は先輩である。地位も、名誉も、財産も、今夜だけ

午後四時より創立総会に入り、次の事項を審議し決定する。(主な事項)

- 総会 今後二年毎に開催(同期会は毎年開催のこと)
- 会費 年一、五〇〇円(二年毎三、〇〇〇円徴収)
- 役員 会長 松村英二 (21回生) 副会長 川端祥瑞 (24回生) 岡田喜一 (36回生)
- 会計 佐藤春吉 (30回生)
- 幹事 卒業年度別一名
- 事務局 岡本税務会計事務所内
- 企業部会設置 同業種間の会員相互の親睦と情報交換のため、次の十部会を設置し会員は、いずれかに所属する。() 内委員長名
- 1 農林・水産 (中野下隆三 26回生)
- 2 織 維・紙 (谷原 政之 24回生)
- 3 建 設 (広瀬 晴之 23回生)
- 4 化学薬品 (堂本 拳富 23回生)
- 5 鉄鋼金属 (小畑 耕造 23回生)
- 6 機械電機 (千代 茂夫 24回生)
- 7 商 業 (稻 刀 23回生)
- 8 金融不動産 (谷口 敏之 24回生)
- 9 海陸運倉庫 (今泉健次郎 23回生)
- 10 サービス業 (田村 東勲 29回生)

は通用しない。一ゼミ生にかえった会員は「よう」、「やあ」と肩を叩き合い、手を握り合いながら盃を傾け、最初は行儀のよかつた列が、あちらに一団、こちらに一群と輪ができてはじめるころには宴はたけなわである。先生の歌を皮切りに、上手か下手かわからない歌がとびだす。こうなると止まらないものである。しかし、時間はどんどん過ぎて行く。こんな時の時間の経過は異常に早いものである。写真のフラッシュがひらめき、学歌が、そして逍遙歌が流れるころには、もう梅田界限も更けていた。このまま一夜を飲み明かし語り明かしたい、別れ難い何かか心中を走る……。

倉辻先生のご健康を祈念し、来年の再会を約しつつ梅田のネオン街の中に一群づつ消えて行きこの盛会も幕となった。

来年こそ君も参加して下さい。なお、連絡先は 大阪経済大学 倉辻 平治先生 です。

竹林ゼミ 竹林祐吉先生

最後に、倉春会開催にあたり、当日はもちろんご協力いただいた現役の諸君に心から謝意を表します。

一、昨年十一月ゼミOB会を催しましたが、約三十名、遠くは宮崎からの参加もあり盛大でした。

二、当ゼミでは毎年十一月にこのOB会を催すことにしていますが、住所不明でハガキが返ってくるのがかなりあります。会社でご転勤の場合など、お手数ながら私まで(千六一七 長岡京市一里塚二四一三〇三、竹林祐吉)、ご連絡下さい。なお、卒業後全然所在不明で連絡出来なくて困っている方もかなりありま

すので、お知合いの方の住所もお知らせ頂ければ幸いです。

三、今年も十一月に開催の予定ですが、その折に、今年北海道にゼミ旅行したときの8ミリを映研のゼミ学生諸君が上映してくれることになっています。是非ご期待、ご出席下さい。

四、私は昨年から就職部長の仕事をしています。ご存知の通りの就職戦線ですので、後輩の就職向上のために、何かとご協力、ご指導の程をお願い致します。

玉井ゼミ 玉井孝弘先生

諸君、元気かね。各地で活躍のことと思う。わがゼミは、相変わらずガヤガヤのんびりとやっております。イキのよい元氣者もいて頼もしい限りじや。余はこの夏、伊予の松山に帰省中、突然坐骨神経痛にかかり参り申した。別にアルコール過多のせいではないと確信してあるが――。

今は快方に向かっておる。安心されたい。

ご自愛を祈る。

成瀬ゼミ 成瀬 洋先生

私のゼミナルもこの春で四回の

四季の影

松本 剛

生きのびてさるのこしかけ煎じのむ盆に菜の花そえられてきて
蛇料理食いし男のわきにいて夏にひよわきわがサングラス
お百度をかぞえる紐もたちまちに湿りましくる霧立ちてより
勤めより帰れば床に臥すわれをカルタ並べて子は待つものを

卒業生を送り出すまでにいたりました。人数は毎年十人前後で、いたって小じんまりした雰囲気です。ただ自然科学系ということもあって、文献がいつも不足気味で、学生諸君には不便や迷惑をかけています。相変わらず四年生のはじめに一泊で研修旅行をやつて、実地を見学することにしてあります。ことしは馬場付近の民宿に泊つて、木曾谷から瀬戸方面を歩いてきました。結果的にはこれが一番学生諸君には印象的なようですが、ただいつの間にかお膳立をすべてこちらでやるようになってしまひ、一寸大へんです。こういう点をふくめて、もっと受身でなく積極的自主的にゼミにのぞんでほしいと願っているのがいまの私の心境です。

浜本ゼミ 浜本 泰先生

一、昭和四十九年夏に昭和四十五年度卒のゼミ生と羽衣の東洋別館で、今春には昭和三十九年度卒のゼミ生と拙宅で楽しく往時のゼミ活動や、イン・ゼミでの成果を語りあいました。

二、昨冬は、横浜市立大学での第十二回日本学生経済ゼミナル大会(イン・ゼミ)に、日本経済論

経営総論、経営管理論、経営組織論、労務管理論、証券市場論の各部門に参加し、報告に、討論に大いに成果をあげました。現在、第二十三回福岡大学大会への参加のために、ゼミ諸氏は少人数ながら各部門においてその準備に頑張っております。

三、例年のように春季合宿は柄の浦で、夏季合宿は今年、近江舞子で実施しました。スタンツも浜本ゼミ・テーマソングも存命しております。

四、今夏、立派な同窓会名簿ができましたので、これを起点として浜本ゼミ名簿を一層整備したいと思ひます。不明な人や不明な友人がりました。後輩の就職の斡旋をよろしく願ひます。

藤原ゼミ 藤原光治郎先生

藤原ゼミOBの皆さん、お元氣で活躍のことと思います。

来る十一月三日、藤原光治郎先生をかこむ集いを計画しております。

藤原先生は、若干血圧が高いようにいわれておりますが、まだまだ元気一杯学生諸君の指導に意欲的に活躍をされております。皆さんご安心下さい。

藤原ゼミのOB会「藤原会」はずでに、十三年程前に結成され、その後数回の会合を重ねておりましたがそれぞれ職務の都合等で、このところ休眠しておりました。藤原ゼミはその卒業生数も数多いゼミの一つでありますだけに、全国各地で活躍の皆さんの参集は、かなり困難であります。

経営総論、経営管理論、経営組織論、労務管理論、証券市場論の各部門に参加し、報告に、討論に大いに成果をあげました。現在、第二十三回福岡大学大会への参加のために、ゼミ諸氏は少人数ながら各部門においてその準備に頑張っております。

りますが、やはり参集出来る人達だけでも、恩師をかこみ先輩後輩がお互いに母校を思い、母校発展のために何かお役にたてることを楽しみに共に語り、共に飲み、共に歌える機会、大変有意義なことであると信じます。先日藤原ゼミOBの方たち七人が先生をかこんで、時が経つのも忘れて、実に楽しい一夜をすごすことが出来ました。そこで、期せずして、藤原会をもう一度盛り立てることに衆議一決しました。先生の二十代ともおめる張りのある若々しい声でのロシヤ民謡を聞くにおよんで、何かしら若き血を体に感ぜずにはおられない一夜でした。

十一月三日、久しぶりに発展した学園を、訪れていただき、恒例の同窓会、懇親会の後に藤原会を、学校の一室をお借りして行うことになりました。

お元氣な先生と、旧友と、久しぶりに語り合えることが出来ますことを、楽しみに期待しております。

準備の都合上ご出席いただける諸兄からのご一報を、お待ちしております。

会長 浜崎克己 二十一回

世話係 川村理哲 二十五回

古久保教室

古久保五郎先生

皆さんお元氣ですか。小生も七五kgになって一寸重たく感じるようになりました。教室へ入ったので動く機会がなくなつたんです。竹刀を振るやら皿鈴を持つやらして防戦これ務めています。永くつつかないのが玉にきず、太る方が直ぐ追いつきます。この頃梅田辺を歩くと卒業生諸君によく出会うのです。声をかけてくれるのがとっても嬉しい。後一、二年で停年というところだが、若い氣分が失せないの、一緒に呑んだりする。ゼミは持っていないが相談に来る連中もいる。今試験の最中、答案が六十センチ積むと、研究室の両

空を見上げたら、ところどころ
鰯雲がよりそうようにひっそりと
肩をならべていた。あつい夏から
秋がやってきたようだけれども、
お元氣でお過ごしのことでしょう。

この欄にいつもお固いことばかり
を書いているので、今日はひとつソフトタッチでまいりましょ
う。もつともこれは、先日女性社
員の多い商社で講演をたのま
れた時のお話だけれども、題して
「女が愛されるとき……」。

空・雲・女……もう秋になってい
るわけだけれども、秋の女性は本
当に美しい。鮎のようなにおいをも
った姿態。少し憂いをもったま
なざし。音響ならやはりクラシッ
クが好きかな?そんなふうに関わ
る女性を、ときどきみかけるけれ
ども、秋は女の季節である。そし
て、女が愛されるときでもある。
さて、女が愛されるとはどんな
ことをいうのだろうか。なにげな

方に置いて採点をしないと間がつか
ない。

台風は如何でしたか。罹災の学生
にテキストをかせてあげたが良い点
をとつてくれていたか心配だ。

時は正に秋である。スポーツ便り
も盛になることです。後輩はみんな
一所懸命頑張っています。図書館の
拡張工事すみ、なかなか見ごたえ
があります。同窓会の総会といわず
のぞきにきて下さい。月・水・金は
おります。学園祭もまじかです。昔
を思い出して活躍して下さい。学
歌、逍遙歌は講義の第一時限目にや
ります。年中行事の一つです。歌つ
て発散して下さい。古久保流のを
お教えます。期限におくれたので
近況迄、活躍を祈ります。

いふとしたこと。さりげないこと
ば。はっとみつめるまなざし……
よくふりかえってみると、そんな
ささやかなことから、女のドラマ
が始まり、女の歴史がつくられる。
それが愛というものかどうか、し
っかりとみきわめなければならな
いわけだが、愛というものはあん
がい「素朴」で、「素直」なの

女が愛されるとき……

痴人のたわごと

第六回 荒牧博之

かもしれないと思う。
かのトルストイ原作による「ア
ンナ・カレーニナ」の場合だつて
そうだ。そのなかで、ヴィロンス
キーがアンナを好ましい女性と想
うわけだが、それはヴィロンスキ
ーがアンナに道をたずねたときか
ら始まる。アンナはそんなに美人
ではないけれども、愛くるしい表

松原ゼミ

松原保太郎先生

ゼミナルOB諸兄。
お元氣で益々ご発展の程祈つてお
ります。小生もお蔭様にて碌々なが
ら元氣で頑張つて生きのびておりま
す。出来るだけ度々近況お知らせ
下さい。楽しみにしています。

松尾ゼミ

松尾竹彦先生

経大に奉職以来十余年になります
が、今では松尾ゼミ出身者も約五百
名を数えております。現在の三、四
回生もそれぞれ約八十名の大世帯で
すが愉快にやっております。一度ゼ
ミ卒業生の合同コンパを開催したい
と思つてはいるのですが、適当な幹事

情のなかで、やさしい愛想のいい
ところが多くの人から好かれてい
たようだ。俗に、男はナントカ、女
はアイキョウということがある
が、トルストイ先輩もいつている
ように、なるほどそうだなあと思
う。

そういうわけで、女が愛される
条件を、評論家、草柳大蔵先輩に

教えてもらったので、メモしてみ
よう。まず①こまかい心づかい
をもつておこう。ということば、
ささいなことだけれども、たとえ
ば、歩道や電車のなかで、つらぬ
おとしより子供に手を貸してや
る。そんなささいな「やさしさ」
が、愛されるチャンスになってゆ
くわけだ。つきに②涙ぐもう。と

のいないのが悩みの種です。なお、
勤務先、住所変更の節には、是非と
も、大学宛ご一報下さい。

右、宜しく願ひ申し上げます。

松村ゼミ

松村幸一先生

松村ゼミの卒業生の皆さん、その
後お元氣ですか。七月に卒業生名簿
をお送りしましたが、十八人の方に
ついては住所がかわっていたとみえ
て返送されてきました。また、三十
四人の方からはお手紙とカンパをい
ただきました。誌上を借りてお礼を
申しあげます。おかげで、不明の住
所や、訂正すべき箇所がいくつかわ
かりました。いつか機会があれば、
訂正したものを作つてお送りした
と思ひます。

いうことは、それが演技であつて
はならないが、それが感情の豊か
さからくるものなら、男はそれに
ひきつけられる。あの喪服の女の
美しさというのは、そんなところ
に潜んでいるのであろうか。ジイ
ドの作品「狭き門」のなかで、ア
リサが母の不義にじっと耐えてい
る姿も女のすばらしいイメージを
印象づけている。そして④女のし
とやかさも大切なことであろう。

やはりなんというのか、おき忘れ
られたものを、そつともっておく
楚楚としたしとやかさ、そんな和
服をきたみたいで女性に、男の気
持は動いてゆくことだろう……。

と草柳先輩はいっているけれど
も、そのようなたずまいととも
に、愛と知性をたたえた、つらぬ
きをもった聡明な女性が、ほんと
うに愛される女性ということにな
らうか。

(六回卒・FM福岡放送・ニュー
ース・キャスター)

全 面 訂 正

”	”	独 語	大 田 章 夫
”	”	”	太 田 伸 広
27	”	”	小 田 切 香 苗
”	”	仏 語	小 野 田 節 夫
”	”	外国書 講読	服 部 裕
”	”	独 語	鎌 田 道 生
”	”	証券市場論 神大商学博士	川 合 一 郎
”	”	仏 語	川 神 伝 弘
”	”	英 語	木 村 正 憲
”	”	外国書 講読	斉 藤 栄 司
28	”	露 語	角 好 英
”	”	外国書 講読	高 田 紘 二
”	”	体育実技	多 久 和 文 則
”	”	仏 語	橋 陽 造
”	”	体育実技	辻 井 義 弘
”	”	体育実技	中 尾 美 喜 夫
29	”	独 語	永 見 潔
”	”	英 語	平 林 幹 郎
”	”	外国書講読・貸金形態論	福 田 義 孝
”	”	英 語	堀 孝
30	”	心理学・教育青年心理学	松 原 慶 太 郎
”	”	外国書 講読	松 本 有 一
”	”	販売管理論	光 沢 滋 朗
”	”	仏 語	山 本 省
”	”	独 語	吉 田 卓

一 部 訂 正

(事務職員)

31	庶務課	木下文登
”	”	林 義 昌
”	”	松 崎 任 雄
”	”	梅 本 惠 美 子
”	”	久 富 木 原 明
32	”	村 路 愛 次
”	人事課	小 村 隆 子
”	管財課	林 富 一
”	経理課	辻 利 彦
”	”	”
”	教務部	蕎 麦 谷 東 造
”	教務課	”
33	就職部	岩 本 浩 一
34	図書館	大 内 博 子
”	事務室	替 地 勝 治
”	”	森 谷 彰

(旧教員)

37	菅野和太郎	物故
”	川原吉次郎	物故

(会員)

44	1	中 島 庸 夫
”	”	赤 松 仁
47	2	木 原 親 平
51	3	磯 野 斉
”	”	”
52	3	長 谷 川 敏 信
”	”	松 井 大 介
53	3	嶋 井 憲 夫
”	”	福 元 富 四 郎
68	6	(佐々木)信貴
69	6	前 田 和 夫
76	7	新 田 正 信
83	8	土 井 岡 進
”	”	中 西 四 朗
90	9	山 口 久 雄
”	”	山 口 光 春
94	10	串 岡 茂
99	11	五 十 嵐 達 朗
107	12	有 山 和 雄
108	12	柴 田 博 之 (薫)
116	13	東 内 映 子
136	16	酒 井 克 己
141	17	太 田 一 澄
”	”	(大原)西尾良明 (大原)西尾良明
”	”	”
”	”	岡 本 只 真
142	17	榑 原 勝
”	”	(塩河)三浦次夫
”	”	竹 村 政 雄
”	”	”

ページ	所 属	職 名	氏 名	郵便番号	住 所	電 話
31	学 校 医	医学博士	久志本 弘			
31	事 務 職 員					
”	庶 務 課		北 住 早 智 子			
”	庶 務 課		内 藤 信 枝			
”	庶 務 課 (用務員)	(用務員)	片 岡 利 彦			
”	庶 務 課 (学生寮)	(学生寮)	内 藤 幸 雄			
32	管 財 課		有 馬 博 子			
33	図 書 館 事 務 室		清 水 泰 子			
34	図 書 館 事 務 室		鈴 木 真 代			
”	図 書 館 事 務 室		高 塚 邦 夫			
”	図 書 館 事 務 室		三 宅 律 子			
”	図 書 館 事 務 室		宮 野 章			
”	図 書 館 事 務 室		西 村 美 智 子			
”	図 書 館 事 務 室		橋 本 稔			
”	体 育 館 事 務 室		阪 本 武 司			
34	経 営 産 業 経 済 中 小 企 業 経 営		河 井 保 雄			
37	旧 教 員		風 間 鶴 寿			

(会員)

ページ	回	氏 名	ゼミ	勤務先または職業	電 話	郵便番号	現 住 所	電 話
67	6	荒 牧 博 之		FM福岡放送ニュースキャスター				
68	6	戸 田 秀 親		明和企業㈱代表取締役				
75	7	中 条 四 郎		吹田市立第一中学校長				
81	8	小 倉 源 造		川鉄商事㈱広島支店長				
83	8	前 田 良 隆		千葉県商工会連合会指導課長				
84	8	山 本 賢 蔵		江田島町立切串中学校校長				

同窓会名簿を訂正して下さい

今回立派な同窓会名簿が出来上がりましたが、ご承知のように、昭和商時代から数えて、卒業生の数は3万人、特に最近では年々2000人近くの人達が卒業するのですから、その近況の把握は大変で、名簿の作製もそれにつれて困難なものとなってきました。

5年の間隔で出来るかどうか、多少疑問な点もあります。そこで、今後、この灘江の紙面を借りて、不明者の発掘と、名簿の変更等をご連絡することになりました。どうかお手元の名簿と照らし合せ、ご訂正下さい。

なお、左の欄は全面的な訂正で、右の欄は一部訂正ですので、右の欄につきましては、ゴチックのところだけを訂正して下さい。

全 面 訂 正							一 部 訂 正						
ページ	役職	氏 名	回	勤務先または職業	電 話	郵便番号	現 住 所	電 話	ページ	回	役職	氏 名	正
(同窓会本部役員)													
10	理事	山 田 信 次	9						9	3	常任理事	磯野 斉	
	理事	坂 上 謹 之 助	12						10	9	理 事	山口久雄	
	理事	奥 村 美 智 子	13						”	13	”	山崎和子	
	理事	百 瀬 昭 治	16						”	16	”	酒井克己	
11	理事	川 村 敦 朗	25						11	25	”	村井十三夫	
	理事	木 戸 淳 一	35						11	31	”	山本昭夫	
13	北九州支部長	荒 牧 博 之	6						11	35	”	粕木 弘	
	大阪支部長	金 子 昭 典	15						10	20	”	小林 郁夫	
(学校法人経済大学 役員)													
18	評議員	松 原 四 郎							”	”	”	”	
(専任教員)													
ページ	職 名	担 当 科 目	氏 名	郵便番号	現 住 所	電 話							
経済学部													
21	助教授	米 国 経 済 事 情	松 村 文 武										
22	講 師	経 済 学 史	竹 本 洋										
経営学部													
22	教 授	法 律 学 特 殊 講 義 憲 法	千 葉 勇 夫										
23	助教授	経 営 管 理 論 ・ 経 営 組 織 論	松 尾 竹 彦										
23	助 手	外 国 書 講 読	池 野 重 男										
23	”	”	谷 口 明 文										
教養部													
23	教 授	社 会 思 想 史 ・ 論 理 学	中 村 九 一 郎										
24	講 師	教 育 社 会 学 ・ 教 育 行 政 学 道 徳 教 育 の 研 究 ・ 同 和 教 育 論	近 藤 秀 磨										
24	”	経 済 地 理 ・ 地 理 学 ・ 教 育 地 理 学	森 川 滋										
25	助 手	独 語	六 浦 英 文										
兼任教員													
26	講 師	外 国 書 講 読	荒 木 武 司										
”	”	商 法 総 則 ・ 商 行 為 法	今 野 勉										
”	”	英 語	植 村 良 一										
”	”	”	内 田 克 孝										
(同窓会支部役員)													
13	7	大阪市役所支部長	砂山 保										
(専任教員・経営学部)													
22	助教授	門 坂 正 人											
(教養部)													
24	講 師	田 中 邦 夫											
”	”	門 野 嘉 津 子											
(兼任教員)													
26	講 師	岡 本 光 代											
28	”	住 田 照 夫											
”	”	大 安 義 彦											
”	”	豊 永 彰											
29	”	平 田 重 和											
”	”	堀 江 義 広											
”	”	堀 経 夫											
30	”	松 野 潔 子											
”	”	三 橋 時 雄											
”	”	宮 本 靖 介											
”	”	毛 利 良 一											
”	”	鷺 田 小 弥 太											

全 面 訂 正

181 22 河内清弘 鈴木
 182 22 齊藤隆彦 木村
 182 22 桜井盛夫 井上
 182 22 杉村栄喜 藤原
 183 22 武井正明 杉原
 183 22 武田光正 田岡
 183 22 辻 淑 皓 木村
 185 22 野崎 愈 藤原
 185 22 畑 襄 一 田岡
 185 22 原口 隆 藤原
 185 22 藤井 哲 倉辻
 186 22 古田武之 田岡
 186 22 堀 義 昭
 187 22 南方捷也 黒羽
 187 22 森本真輔 風間
 194 23 久保康夫 田岡
 194 23 厚東清夫 北里
 195 23 田口俊朗 土生
 197 23 野田逸郎 倉辻
 198 23 三矢本高博
 199 23 山口隆司
 204 24 印藤利典 大槻
 206 24 小池幹夫
 208 24 徳永 允 風間
 211 24 森沢 哲 夫 倉辻
 215 25 生田邦雄
 216 25 川村敦明
 217 25 河田寛明 渡辺
 220 25 広岡喜次 藤田
 231 26 橋 千 秋 渡辺
 240 27 馬田寿雄
 252 28 右遠正夫 喜田
 255 28 島田隆文 倉辻
 260 28 南本啓次
 261 28 吉原真夫 喜田
 267 29 関林 茂 土生
 269 29 国西良昌 藤原
 281 30 井上 万治郎 喜田
 288 30 谷本征次郎 藤田
 292 30 森原啓一郎 真野
 302 31 幸田 貞 昭
 304 31 鈴木 晃
 306 31 中島克己 浜本
 306 31 中 杉 高 三 中村
 318 32 五十棲保彦 竹林
 319 32 宇佐美忠博 浜本
 323 32 小林文己 竹林
 325 32 下地克己 巡
 330 32 西野皓三 入江
 335 32 守口昇一 巡

一 部 訂 正

270 29 鈴木敏憲
 273 29 西田孟弘
 274 29 福永好文
 " "
 " "
 289 30 中野 晃
 " "
 292 30 村津美德
 297 31 明野邦彦
 浅岡 安
 井手正夫
 300 31 鎌谷 任
 山本昭夫
 326 32 (田中)服部
 328 32 垂井英夫
 335 32 森野洋造
 327 32 高谷正次
 343 33 (松下)伊藤
 344 33 大阪嘉伸
 " "
 346 33 加納克彦
 351 33 迫田茂雄
 361 33 的場正信
 丸宮敬弘
 373 34 (小川)大岸
 " "
 376 34 上山重行
 377 34 北川征男
 379 34 嵯峨山数馬
 386 34 富井昭博
 387 34 中野与志久
 388 34 西川忠男
 389 34 浜田修造
 394 34 美濃辺英明
 溝口丹誠
 395 34 森田 馨
 " "
 396 34 八木元治
 427 35 西村信行
 450 36 大岸清二
 " "
 479 36 若林 茂
 494 37 木本恒夫
 521 37 吉田正一
 527 38 井本雅男
 534 38 角原孝志
 552 38 長岡雅治
 606 39 宮城滋夫
 610 39 山本礼三
 616 40 有田一郎
 620 40 上野雅樹

全 面 訂 正

87 9 岩井正英
 88 9 須々木敏郎
 93 10 植田三雄
 " "
 94 10 国栖 晃
 100 11 倉垣 真 雄
 100 11 坂上光一
 101 11 角川年信
 101 11 能宗新八
 101 11 (馬場)城家繁
 102 11 三間雅美
 102 11 宮本 功
 102 11 諸田 実
 108 12 阪上 謹之助
 108 12 白藤 毅
 108 12 高浜 謙 治
 110 12 本田寛治
 110 12 町田 達 治
 116 13 (佐野)田中美代子
 106 13 (友田)安藤小満子 黒羽
 121 14 小 原 妙 子
 127 15 金子昭典
 137 16 百瀬 昭 治
 142 17 西山直澄
 147 18 陶山益三 大北
 148 18 松田和夫 木村
 148 18 菱田 昇 藤原
 153 19 青野 吉 秀 黒羽
 153 19 井上 吉 秀 黒羽
 154 19 坂下富重 黒羽
 155 19 武田政博
 155 19 田 淵 宏
 155 19 谷口信輝 西島
 155 19 刀弥敬一 中村
 156 19 西山正一 北岡
 156 19 浜田康弘
 156 19 平池 稔 西島
 168 21 (印藤)杉浦好一 喜田
 173 21 (船津)宗田弘 井上
 174 21 山口義孝 北里
 173 21 松川 弘
 179 22 井上兼佑 竹林
 179 22 井上敏雄 藤原
 179 22 猪川英司 藤田
 180 22 岩橋正二郎(美男) 土生
 " "
 180 22 今 森 喜一郎 土生
 180 22 宇 野 勲 藤原
 180 22 大 橋 克 彦 黒羽
 180 22 (岡本)谷沢俊彦 倉辻
 180 22 奥 田 勇 井上
 180 22 貝 塚 豊 風間
 181 22 加 藤 潔 鈴木

一 部 訂 正

143 17 矢持敏和
 " "
 米谷富一郎
 153 19 青木 勇
 池田 弘
 (今井好子)
 内田知行
 " "
 太田俱己
 大植春夫
 " "
 154 19 亀井常男
 (北村)三田
 北村善信
 155 19 高千穂八郎
 高谷昌良
 田辺 悟
 谷井 勝
 土居忠章
 156 19 禾野秀昭
 平野昭男
 藤森己佐雄
 157 19 森村利夫
 山中 昇
 横山 俊
 吉本晋一
 161 20 小林郁夫
 " "
 169 21 小浜俊雄
 170 21 榊 喜作
 183 22 立山仙司
 " "
 " "
 195 23 四野和春
 " "
 200 23 久保康夫
 207 24 田口 昌
 216 25 川村理哲
 221 25 堀田 繁
 " "
 221 25 前田信雄
 222 25 水納敏也
 山形 武
 228 26 小倉三千男
 229 26 北野信一郎
 235 26 安田孝雄
 256 28 高橋敬男
 260 28 松下英紀
 村上彰(曳)
 267 29 加藤忠男

守つてきた、文字通りビルと共に歩んだ男が私の姿です。母校のますますのご発展と、同窓の諸兄弟のご健康とご多幸をお祈りいたします。

第五回 下川舜三

よき時代の思い出多い多感な青年時代を送ったあの淀川畔の学び舎を出て、既に三十六年になる。学友の多くは戦争によって尊い若い生命を祖国のために捧げて逝った。ふり返つてみると実に波乱にとんだ生涯であったと思う。私も九死に一生を得て、中国から田舎に引き揚げ、今日まで二十六年間、地方団体に参画して、また県庁にも沢山の同窓生が、それぞれの分野でよき指導者として活躍しておられる、頼もしい限りです。私も既に六十、白髪漸く多くを加えているが、まだまだこれからだと思つてゐるが、皆々様のご健勝とご多幸を心からお祈りしてご無沙汰をお詫びします。

第五回 伊吹雷乘

うっかりして期日が過ぎてしまひました。いつも新幹線の窓から母校を眺め、昔のことなど思い浮べ、校舎の変わりようには目を見はつてゐます。東京には用件があつても、大阪には機会がありません。三十年お世話になった長崎県を退職し、今は小さな社団法人のお世話をしております。

第六回 植村登

筆無精の小生に、無作為抽出方法での断り書きでご指名がありましたので、聊かの責任感と、卒業以来のご無沙汰をお詫び申し上げる意味で近況を申し上げます。四十九年、住友銀行を停年と共に三重

B/Kより帰参、二度目の就職先住友ウォールシステム(株)にきて既に二年を経過しました。構造不況の代表業界アルミサッシ、カーテンウォールの世界で苦闘しています。黒正時代の昭和商売のものはあります。とともに学園を今日の隆盛に導いてこられた諸先生の並々ならぬご努力に衷心より御礼申し上げます。卒業以来何一つ母校に貢献し得なかつたことを本誌面を借りて深くお詫び申し上げますとともに同窓諸兄のご健勝を心からお祈りします。

第六回 石島悟

夜明けの前はひとときわ暗いと言いますが、混迷を極めている今は世情にもやがて夜明けが来るものと信じ日夜元気で頑張つてゐます。

同窓会にも是非一度出席し恩師や同窓の方々と話し合いたいと思つてゐます。私は卓球部にいましたので当時の部長の藤原光治郎教授には大変お世話になりました。是非ともお会いしたいと思つてゐます。現在母校に勤務されている川島正作君とは同級で今尚交友が続いている懐しい友人の一人です。人は幸福を受けんがために生くるにあらず、その義務を果さんがために生くるなりとカントが言つていますが、悔を残さない生活を送るため一日一日を大切に今年もお互いに頑張りましょう。

最後に母校の発展と、同窓の皆様のご健勝を心からお祈り申し上げます。

第八回 中西四朗

二人の子供(男・女)はそれぞれ結婚、別居し、夫婦だけの気楽で退屈な生活を続けておりましたが、この四月に初孫誕生、ジイさんになりました。因に同期の土肥喜久男君(日銀外国局勤務)も同様にジイさんになったことを併せてご披露申し上げます。と言うのは、彼のお嬢さんと恩恵が結婚しているからです。

同窓と言うのは楽屋裏がわかつていていものだと改めて痛感した次第です。私どもの先輩はいわゆる定年前後と言うことで同期の方から転職のご挨拶を頂く昨今ですが、私も様高の減少に備え、ひたすら身の整理に努めております。お互いに忙しい中を同窓の世話をされる方には感謝あるのみですが、母校の現状については、一言苦言を呈します。関西私学に於ける本学のポジションは年々維持、向上しているとは思えないからです。いろいろ難しい事情もあることと思ひますが、戦後派大学にない本学の伝統の上に、経済(経営)学集約効果(単科大学の特性)を横上げ、積極的P・R(話題性の提供)により、存在価値を明確にされるよう、特に教職員各位に要請したいと思います。

第九回 馬屋原章

「瀬江」十二号発行の由、お慶び申し上げます。数年前、広島県東部福山市を中心に福山支部なるものが、浜本教授、比企事務局長ご出席の下に大々的に発足致しましたが、その後諸兄のご多忙のため種々の事情に依り、尻すばみの状態となつております故、近々、組織的な福山地区同窓会を持ちたいと思つております。結成当時、母校マンドリンクラブの福山演奏会を市民会館大ホールにおいて開催し、母校の発展振りをまのあたりに見せて頂きました。なお十六年卒、伊藤善光氏が(福山市内で税理士を開業)六月七日他界されました。瀬江を通じ謹んで哀悼の意を表します。最後に私事、当地に於て東洋工業製造のマツダ車の販売並びに整備の業に専念致しております。

第十回 鴨田正幸

一時健康状態の思わしくない時期を過しましたが、大分元氣を取り戻しました。事業の方も第一線を譲り、最近時は

第二十一回 井関功

一、現況、経大卒業後、大阪歯科大学に進み、現在、和歌山県岩出町にて歯科医院を開業しています。経大にお世話になったお陰で税金や金銭面に役立って喜んでゐる次第です。二、同窓会に希望することは、みなあまり母校のことを、ないがしろにしているように思われます。卒業したことを大いに誇りに思い、母校の発展を祈りたい。名簿の行方不明の多いのびびりした次第。

第二十三回 伊伏彰

一、我々の年代(昭和一ケタの末期)すでに四十の不惑の年も乗越え、中期期の働き盛り、経大卒業後二十年近くの歳月を迎えんとしておりますが、同期の諸

間の余裕もできてきました。三人の娘も各々教育を終え、二人は既に嫁ぎ孫も二人できました。高松では、玉津島照雄君、十五回卒業の水野高司君等によくお会いします。母校の益々のご発展を祈ります。

第十三回 津田和代(旧小橋)

夏、長岡京市の実家へ帰郷しますと、軒を遙かに越え枝々を繁らせたむくげが純白の花をいっぱいつけて涼しい木陰を作っております。これは私母校在学中、お昼休みに校庭の日当りの良い垣根によって友と語りつつ頂戴して帰った種子から成長した実生のむくげでございます。卒業以来三十年、母校にはご無沙汰のままですが、此の樹を仰ぐ時万感交々甦つてまいります。

卒業の時、黒正先生のご訓話の中に「現代女性(モダン・ガール)らしく生きよ」とのお言葉がございました。これまで果してそのような生き方をしていたか、今は亡き先生に自信をもってお答えすることが出来ません。しかし中年を迎えた私の中で、丁度芳醇なワインの香を嗅ぐような思いが致しますのは何でしょう。それは過ぎし日々、諸先生から頂いた学問を通してその青春の命の断片を私達に分け与えて下さったのだという気がして、有難く感謝でいっぱいです。そして、私は若い人々に何かを伝えることが出来たのだろうか、伝えなくてはと頻りに考える此の頃です。これはどうやら人生の終りではなく半ばに達したせいでしょうか。

早くも谷を立ち出でて

春に先づ逢う鶯は 早くも谷を立ち出でて 花の林に移るとも 雪の古果をかえりみよ

雪の古果をかえりみよ

ペンをとりに始めますとふと、この歌が口をついて出ました。何十年ぶりか、小学校の卒業生を送る歌でした。大変懐古調になってすみません。現在、筆曲を習つたり教えたりしながらピアノを教えています。二人の子供達はずつかり成長致しました。母校で習得

52年度入試要項

1. 募集学部・学科・定員

Table with 3 columns: 学部 (Faculty), 学科 (Department), 入学定員 (Enrollment). Rows include 第1経済学部 (1部 (昼)), 第1経営学部 (1部 (昼)), 第2経済学部 (2部 (夜)), 第2経営学部 (2部 (夜)).

2. 試験日・科目・時間・配点及試験地

Table with 6 columns: 試験日 (Exam Date), 教科科目 (Subjects), 時間 (Time), 配点 (Points), 試験地 (Exam Location). Rows include 経済学部 (1・2部) and 経営学部 (1・2部) with details on subjects like 英語 B, 現代国語, and 古典I乙.

3. その他

- ① 検定料 13,000円
② 11月発行の入学案内書は、〒共 600円。
③ 旧教育課程卒業者に対する措置
旧教育課程による高校卒業生に対しては不利にならないように新・旧両課程の共通分野から出題する予定

第十四回 逸見豊(旧後藤)
水戸に住んで七年、早いものです。昨年は両親が次々に亡くなつたり、長男が結婚したり、私にとってことの多い年でした。その悲しい時、喜びの時に同期の向山さん、桃井さん、植木さん(旧姓)はじめ皆さんにお世話になりました。向山さんは二十五年前にお目にかかりましたが、本当に昔のまま、お嬢様お二人に恵まれ、自営。桃井さん(簡井)は趣味と事業に多忙。植木(楠生)さんは奈良県にお住い、仏像やお寺に造詣深く、さらに御主人様から頂く年賀状の版

画はずばらしく毎年の楽しみ。その他この一年にお目にかかったり、お電話頂いた同期のご消息を少し、前田勝子さん、東洋紡にお勤めからひき続きインテリア関係のお仕事、東京出張の足をはるばる水戸まで伸ばして下さいました。高松(西島)さん、千葉でお嬢さん坊ちゃんお一人つ家庭菜園が趣味、そのうち手作りのトマト、ジャガイモをご馳走になるつもりです。松井悦子(黒江氏夫人)さんこの数年ご病床にあります。電話、お手紙の様子では大変お元氣に思いますが一日が長く退屈だそう。皆さんお手紙でもお見舞下さい。

第二十一回 井関功
一、現況、経大卒業後、大阪歯科大学に進み、現在、和歌山県岩出町にて歯科医院を開業しています。経大にお世話になったお陰で税金や金銭面に役立って喜んでゐる次第です。二、同窓会に希望することは、みなあまり母校のことを、ないがしろにしているように思われます。卒業したことを大いに誇りに思い、母校の発展を祈りたい。名簿の行方不明の多いのびびりした次第。三、自治会の活動は大いに結構だが、行き過ぎた学生が多いのか、新聞をにぎわすのに経大がはいつていると残念に思う。

兄弟、並びに風間ゼミナリーの諸氏殿、お元氣で生活のこと存じます。われわれの卒業年次は不景気で、現在以上の就職難でした。小生など例にもれず、就職浪人を一年経験しました。現在、何が因果か、決して成績優秀でなかった当人が、学徒の端くれとして、女子短大生を主とする当地鹿角経済大学で教鞭をとっております。しかも、経大時代の得意科目(簿記・会計・成績は両方とも可、簿記に至っては単位修得に二年かかりました。)をであります。一昨年は、その研究のため、妻子同伴、ハンブルグ大学に留学して来ました。人生とは全く解りません。二、経大の発展(学部増設を含めて)充実課題は、高度経済成長時一つの契機でしたがチャンス逃した感があります。もつとも、同時に難儀な大学紛争と重なり、その意味では不幸でした。しかしながら、これからの低成長時代の本学発展こそ真に実力のある発展といえます。今一度、本学の長期計画にもついた発展プログラムの策定と再検討の機会をもたれ、単に大学内部のみならず、同窓生諸氏にもその意図を報告され、協力を求め

られるべきではないでしょうか。大学執行部に愚見申し上げる次第です。それと関連で建設的意見を見出すため、経大の発展構想について、同窓会の立場から白書作りでもなされる必要はないでしょうか。同窓会総会での審議を提案する次第です。この点、同窓諸氏ががなものでしょうか。

第二十四回 篠原 正

澁江編集の皆様のご努力により、母校の様子がよくわかりなつかしく大変感謝しております。東京の中心地に勤務しておりますが、郊外からの通勤に悩まされ同窓生の諸氏と会うことも、久しく聞く東京支部同窓会以外に殆んどありません。ただ一人石川君とのみ時々会い、昔話を花を咲かせております。澁江に接する時同窓会名簿を見る時等、仕事や家庭のことに追われ、思わず過ぎた十八年余を惜しみ、これからは編集の皆様のお力添えを得、同窓の諸氏との接触を深めてゆきたいと思っております。皆様のご健康を祈りつつ...

一人が力を集結し、日頃から兼ね備えた練習の成果を出しこの秋のリーグ戦には勝ち抜き、私の希望をかなえて下さい。私も力一杯応援致します。私は今会社で建材の仕事に頑張っております。同窓の吉岡さん、湯浅誠二さん元気にしていますか？また小松島に来た折、必ず立ち寄って下さい。母校の発展を衷心よりお祈り致します。

第三十三回 前島 武子(旧大川)

水や濁れる人の世に、真理求めて遊ぶ子の...と、逍遙歌を口ずさみつつ過した学生時代だった。経済学、政治学の勉学に励み、理論と実践の統一をめざして、学生運動に青春をかけた日々。走馬灯の如く私の脳裏をかすめる。早いもので母校を巣立って九年になる。十年一昔といわれるが、十年前に学んだ政治学は現在も私のなかに生きています。既存の支配政党の腐敗と混沌の象徴として、マスコミをにぎわしているロッキード献金事件を分析するのは極めて容易である。

第三十三回 的場 正信

お返事が遅くなりまして申し訳ありません。実は、祖母の容体が急に悪くなりまして、ずーと実家に帰っており、気になりながらも遅くなってしまいました。私は元気で仕事に励んでおります。同窓生の皆様は如何でしょうか？折にふれ懐かしく思い出しています。 敬具

第三十三回 若林 和幸

同窓生の皆様、この欄に投稿できたことは、久しぶりに皆様方にお会いできたような気が致します。同窓会総会には、一度きりしか出席していませんので、今年あたり子供も大きくなってきましたので、家族全員にて出席してみたいと思っ

第三十七回 白樺 進

卒業して早や五年の歳月が経過しました。光陰矢の如し、実感としてよみがえって来ます。また同時に、夜間に在学したことにより「職場」と「大学」の二つの社会を同時に知り、人間関係の大切さを痛感して得ることも出来たことも貴重な収穫でした。現在、専攻した学部(経営学部)とは無縁かとも思える職業、小学校教師として昨年より再出発した小生ですが、今もって青春の一ページとして四年間母校で在学していた経験が、今後の人生に大きな力添えがあるものと信じます。

第三十八回 春名 豪

一、四十七年三月卒業後上京、三光汽船に入社、現在五年目を迎えております。私生活の方は学生時代程に無類一徹とゆかぬまでも、今に見ておれとばかり虎視眈々、体力、気力、充実一番、独身、二十六歳極めて健康。二、いつもながら遠くに働く私共に通信下さって、誠に有難う存じます。各ゼミナールを単位とする通信交流を主眼に置いたようなシステムを作っておきたいものです。三、私は学生時代に、特にクラブに所属していなかったのですが、幸にして多くの友人に恵まれ、卒業後五年目にしてなお、遠く隔った友達から色々な便りや頂戴するなど、今もって強く元氣付けられ刺激になっています。ことに大阪をはじめ京都、奈良、三重、兵庫、あるいは遠く九州などで頑張っている旧友の声は、東京人独特の思い上りを諷め、新たな新生の心持を蘇らせてくれます。各々に置かれた立場と現実を異にしながら

北から南から

名簿の編集を終って、何とも不明者が多いのに驚いた。不明者の一人でもご存知の方は、本部事務局までご連絡下さい。郵便料がべらぼうに高くなった。

第三十五回 和田 全弘
一、現況について...結婚して一年半、いまだに子供なし。
二、同窓会に希望すること...たまには、山、海などで同窓会を開こう。
三、同窓生、友人などのこと...なし。
四、その他、雑感について...最近北野劇場で若大将シリーズの映画が上映され、その映画は、私たちが青春のまっただなかの頃、一世を風びした映画であり、さっそく弁当を買って食べながら見ることになりました。その弁当は、(まあ、もともとも二五〇円だったこと) ...電気がつき休憩のとき、まわりを見わたしてみると同じ年代の女性客がめだち、あーあの女の子達は結婚しているのかなあ、それとも結婚をひかえているのかなあ、など思いながら家路につきました。

第三十五回 中野 和彦

学生時代を終え、早くも八年が過ぎようとしています。私の学生時代は、平穏な毎日が続き、熱心に倶楽部活動をしていました。今から思い起しますと、学生時代は、倶楽部中心の学生生活に明け暮れて、朝は九時頃から夜は七時頃迄練習をしたものです。その中で知り合った友人、学園生活の中で知り合った友人、また、高校時代の友人等、拾い上げてみれば多くの仲間がおられるのですが、いったん社会に出て、年月が経ちますと各人一応にそれなりの責任ある仕事を持つて行動しているため、再会して語り合うということがなかなか出来ません。時折学生の頃を思い出して、「あの時の彼は、彼女は今なにをしているのだろうか...」等と考える時もあります。機会があれば学生の頃に戻って、若さを謳歌してみたいものです。

第三十九回 蟹 由茂行

「澁江」が届くたびに在学中の出来事が走馬灯のごとく、巡り思い出される私です。恩師、懐友、皆様ご清栄のこと思っております。此の度、現況紹介の機会を賜わり、簡単に認めること致します。私は、地方公共団体に勤務し、私有財産制ならではの固定資産に対して税を賦課、徴収する職務に従事しております。課税対象は、土地、家屋、償却資産で、地方税に於いて比較的安定した税といえます。昨年から当市の念願とするカーブフェリーが周航し、観光的、財政的に潤すところ少なからぬものがあるかと思われまします。さらに、最大の懸案事項として、原発誘致といった問題を抱えていることで、賛否両論の見解があって混乱しているといったところですね。同窓生のさまざまな視野からの知識を照会いただければ、私の最も幸せとするところです。

第四十回 寺田 正章

この澁江の発送費が実に百万円をオーバーすることに。そのこともあって昨年からの総会案内を省略、澁江でこれにかえることになったが、今年も一人でも多くの方の出席を心からお待ちする次第である。(松本)



千、半分近くが不明者ということ

澁江 第12号
昭和51年10月15日発行
編集者 山中 良夫
発行所 大阪経済大学同窓会
大阪市東淀川区大隅通2丁目
電話 (328) 2431~3番
印刷所 共成社印刷株式会社
大阪市北区葉村町40番地
電話 大阪 (371) 0254番



大阪経済大学同窓会誌

NO. 12